

令和5年度 学校経営計画書

学校番号	70	学校名	県立浜松北高等学校	校長名	鈴木 敏彦
------	----	-----	-----------	-----	-------

1 スクール・ミッション

「自主独立」の精神のもと、向学心と向上心にあふれる仲間と切磋琢磨する学校として、授業や学校行事、部活動、キャリア教育や異文化理解教育等の全教育活動を通して、広く世界的視野に立って人類の発展に貢献し得る「逞しい人材」の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
次の資質・能力を育成する。 ① 豊かな人間性（知性・感性） ② 幅広い教養 ③ 国際感覚 ④ 規範意識とマナー ⑤ 人権尊重の精神 ⑥ 高い自己管理能力 ⑦ 社会性・公共性 ⑧ 発想力や創造力 ⑨ 企画・調整力 ⑩ リーダー性と協調性	左記の資質・能力を育成するため、次の教育活動を行う。 ① 学問と知性を愛する豊かなところを基盤として、心身の調和的発達を図り、人類の発展に貢献できる人間を育成する。 ② 授業や学校行事、部活動、キャリア教育や異文化理解教育等、全教育活動を通して、個々の資質・能力を磨く。 ③ 県教育委員会の事業等も最大限に活用しつつ、科学の甲子園、模擬裁判選手権、海外短期留学等に積極的に挑戦できる環境を整える。	左記の教育活動を行うため、次の生徒を受け入れる。 ① 夢や志の実現に向け、向学心と向上心を持って粘り強く努力できる生徒 ② 学習のみならず学校行事、部活動及び生徒会活動等に積極的に取り組むことができる生徒 ③ 校外の活動（科学の甲子園、模擬裁判選手権、医療人材育成に向けたプログラム等）や海外短期留学等に積極的に参加し、自己の可能性を高めることができる生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ① 授業や学校行事、部活動、キャリア教育や異文化理解教育、さらには県指定の研究事業「オンライン・ハイスクール（テーマ：医療人材育成に向けたカリキュラム研究）」（令和3年度から3年間の最終年）推進に係る教育活動等、全教育活動を通じ、豊かな人間性（知性・感性）、幅広い教養、国際感覚を身に付けさせ、時代や社会の変化に的確に対応し、広く地域・社会で活躍し得る「逞しい人材」を育成する。
- ② 学校生活のあらゆる場面を通じ、生徒がマナーや規範意識、人権尊重の精神を養い、高い自己管理能力と社会性・公共性を備えた「自立した人間」に成長する。
- ③ 業務の精選、改善や効率化を図るとともに、外部人材の活用等により、教職員の多忙化の解消を図り、教職員が力を注ぐべきところに力を集中できる職務環境をつくる。
- ④ 「未来社会において求められる学力の育成」及び「ICT機器（1・2年生については購入・所持を義務付けた端末）等を活用した教育活動の推進」等を包含する「新学習指導要領」に基づく新カリキュラム（令和4年度から実施。以下「新カリキュラム」）を着実に推進する。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
(1)	<p>生徒が高い「志」を抱き、それに基づく進路目標の実現に向けて切磋琢磨し合う中、大きく成長する。</p> <p>《生徒の成長 日本一の学校！》</p>	<p>① 「高校三年間における進路目標実現に向けた意識啓発に関するロードマップ」（令和3年度作成。以下「ロードマップ」）に基づき、各分掌・学年が適切な時期に、相応の機会・場（総合的な探究の時間、LHR、面談、あるいは様々な分野・学問の最先端に触れる機会として設定する先輩講話、大学の出張講義や講演会、さらには模擬試験や実力テストなど）を設定し、それらを通じて、生徒一人ひとりの適性・特性等を的確に捉え、個別最適な進路指導（高い『志』の育成→目標の設定→目標の実現）を行う。また、必要な変更等を加え、一層相応しいロードマップにする。</p> <p>② 「生徒の実態」及び「これまで指摘されてきた問題・課題」等を踏まえつつ、教務・進路・生徒部が中心となり、本校ならではの「定期テスト、実力テスト、模擬試験等のテスト」や「課題」のあり方等について、研究・協議を進める。</p> <p>③ 令和4年度末までの大学入試（共通テストを含む）の結果についての分析と、それに照らした教員側の指導についての検証を行い、次期大学入試に向けて必要となる対応等（保護者会開催を含む）について検討する。</p> <p>④ 朝補講を含む課外補講（特に理科及び社会）について、「必要とする生徒」「希望する生徒」に対し、適切な時期に、適切な内容で実施する。</p>	<p>①②③④生徒一人ひとりについて、知る・理解するための面談を年3回以上実施。学校生活に関するアンケート（以下「アンケート」）で、「進路目標の実現に向けて自主的に取り組む姿勢を育てている」「進路選択に関する情報提供が適切に行われている」と答える生徒が90%以上。</p> <p>ロードマップについて、必要な変更が加わり、より適切なものになる。</p> <p>②本校ならではの「定期テスト、実力テスト、模擬試験等のテスト」や「課題」のあり方等について、研究・協議が進められる。</p> <p>③令和4年度末までの大学入試の結果や指導等に関する分析や検証の結果、次期大学入試に向けて必要となる対応等について、進路指導部等から教職員、生徒、保護者へ、時宜に合った情報提供がされる。</p> <p>④課外補講が適時、適切・的確に設定される。</p>	<p>教務 生徒 進路 学年 教科</p>

<p>(2)</p>	<p>生徒の学力向上に向け、教職員が積極・意欲的に、授業の改善や指導法の研究等に取り組む。</p>	<p>① 教職員が、授業公開週間における授業参観や、指導主事訪問時の研究授業参観・研究協議参加等を積極的に行う。授業指導の工夫・改善は勿論のこと、未来社会を見据えた「情報教育」や「ICT機器等の活用法」、「ICT機器等を活用した新たな学習指導法」などに関する更なる研究に、前向き・意欲的に取り組む。</p> <p>② 課題について、「量と質」「内容とレベル」「提供の仕方」等の視点から、さらに精査・見直しを行い、やる気を殺がない「生徒の学力向上」により繋がるものにする。</p> <p>③ 定期テストについて、生徒の「学力の測定」や「学習成果に対する評価」において、担当教員によって差が生じない、透明感のあるものとなるよう、また担当教員が指導の検証・振り返り・改善に結び付けることができるよう、さらには問題作成等に係る教職員の負担の軽減を図ることができるよう、同一教科・科目については、可能な限り「共通問題」で行うこととする。</p>	<p>①授業公開週間において、一人2回以上、他教科の授業を参観する。 特に、1・2年生に所有を義務付けた端末について、授業や授業以外の教育活動における多くの場面で、効果的に活用される。</p> <p>①②アンケートで、「興味・関心や意欲を高める授業が行われている」、「学力が向上する授業が行われている」と答える生徒が90%以上。</p> <p>③定期テストについて、測定ツールとしての機能を果たし、「生徒の学力伸長」、「教職員の指導改善」に結びつくものとなる。</p> <p>①②③内容やレベル、進度等の教職員間の差違について、生徒・保護者からの不満の声がなくなる。</p>	<p>研修 教務 進路 情報 国際 教科</p>
<p>(3)</p>	<p>建学の精神「自主独立」を体得し、豊かな人間性、幅広い教養、国際感覚を身に付けて、元気でエネルギーに満ちた逞しい心と体を育むべく、何事にも積極的・意欲的に取り組む生徒を育成する。</p>	<p>① 学校行事、特別活動について、全力で取り組ませるとともに、次代を担う者が、未来社会において求められることとなる発想力や創造力、企画・調整力や運営力、リーダー性や協調性等について、きちんと育むことのできるものとする。</p> <p>② 多様な才能、資質を持つ生徒に活躍の場を提供する。</p> <p>① 国際科について、現3学年から、クラス数の割合が1/10から1/9となったこと、令和4年度及び5年度と2年連続、普通科を第一志望とする者で定員を満たすことになったことを重く受け止め、カリキュラムや指導、広報等のあり方について研究・検討する一方、全教職員でバックアップ体制を構築する。</p>	<p>①アンケートで、「学校行事に意欲的に取り組んでいる」「学校行事はこれから求められる力を育てるものとなっている」と答える生徒、保護者が共に90%以上。</p> <p>②「生徒個々の能力や個性を大切にしている」と答える生徒、保護者が共に90%以上。</p> <p>①②令和4・5年度の校外学修等について検証がされ、令和6年度以降の国際科のあり方について、より良い形が見出される。 国際科について、アンケートで、「入学してよかった」、「入学させてよかった」と答える生徒、保護者が共に</p>	<p>生徒</p> <p>国際 教務</p>

様式第1号

		② スピーチコンテスト等への積極的参加を一層推奨する。	90%以上。 ①②GTEC45点アップ。	
		① 個人目標、集団目標を明確にし、部活動を活性化する。 ② 教員数の減（令和3年度から6減）に対応した部活動の運営（指導体制）について、「部活動検討委員会」において、継続検討していく。	①部活動加入率が95%以上。 ②令和3～5年度入学生の部活動加入状況等について分析がされ、令和6年度以降の部活動の運営やあり方について検討がされる。	生徒部検北高会
(4)	自立した人間としての規範意識、人権尊重の精神を養い、高い自己管理能力と社会性・公共性を備えた生徒を育成する。	① 元気な挨拶を生徒、教職員共々に行う。 ② SNS・スマホの活用・使用等に関わるマナーの問題や人権等について、様々な機会を捉えて指導するとともに、「討論会」等を通じて、生徒自らに考えさせる。	①②機会を捉えて指導するとともに、「討論会」等において、挨拶やマナー、人権等について、生徒自らが考え、意識を高める。	生徒保健(相談)
		○交通ルールやマナーの遵守（特にヘルメット着用が努力義務化された自転車）、無事故・無違反、不注意による遅刻の防止について徹底指導する。	○街頭（登校）指導の継続実施及び自転車の整備点検の徹底。前年比、年間事故件数の2割減、不注意による遅刻数の半減。	生徒学年
		①「いじめ対策基本方針」に基づき、いじめ防止対策を適切に講じる。 ②アンケートにおいて、体罰及びいじめについて調査・確認する。	①②体罰及びいじめについて、いずれも“ゼロ”。アンケートで、「頼れる教員がいる」と答える生徒・保護者が95%以上。	生徒学年相談
(5)	生徒の心身の健全な発達を促し、学ぶ意欲の醸成に繋がる保健・情報（図書）指導や設備の充実など、安心して快適に過ごせる教育環境をつくる。	①薬学講座及び学校保健委員会の開催を通じ、生徒の健康管理、病気予防、安全に対する意識啓発を図る。 ②清掃に対する教職員及び生徒へ一層の意識啓発を図るとともに、技能員との連携、教職員の監督体制のもと、生徒の清掃への取組みについて更なる改善を図る。	①学校保健委員会における生徒研究発表が、質・内容ともに更にレベルアップする（学校の生活環境の整備・改善に関し、生徒目線での意見・提案を堂々とする）。 ②保健委員会・整備委員会の活動を活発化し、生徒自らの発信により、校内美化・清掃活動の充実がより図られる。 ①②アンケートで、「清掃活動を通じて、学びや生活の場を大切にする心を育てている」と答える生徒及び保護者が85%以上。また、トイレ等の汚れについて、指摘がなくなる。	生徒保健学年

様式第1号

		<p>① 毎朝の健康観察について継続実施する。特に、1・2年生については、所有を義務付けた「端末」を活用して実施するとともに、出欠等の管理と一体化した実施について研究・検討する。</p> <p>② 問題や課題を抱える生徒に、より組織的に対応ができるよう、担任及び学年の指導を助けることに主眼を置いた教育相談体制を構築する。</p>	<p>①②アンケートで、「健康、安全の確保に関する指導が適切に行われている」と答える生徒が90%以上。</p> <p>②「学校が楽しい」と答える生徒が95%以上。</p>	<p>教務 生徒 保健 相談</p>
		<p>① 学校後援会等の力も借り、図書館がより開かれたものとなるよう、そのあり方について、常時、検討をしていく。</p> <p>② 図書館だよりの発行（年間6回）、新刊案内ボードの活用など、図書委員会（生徒自らによる）活動を活発化させ、生徒の読書意欲の向上を図る。</p>	<p>①図書館が全日制・定時制、両課程の生徒にとって、本を借りる、本を読み・本に親しむ場としてのみならず、学びやコミュニケーションの場としても機能し、より多くの生徒が集まる場となる。</p> <p>②図書館利用者数が増加。読書活動に関する「生徒から生徒へ向けた発信」が増加する。</p>	<p>情報 (図書) (定時)</p>
		<p>① 地域防災訓練への参加意識の向上を図る。</p> <p>② 校内防災訓練について、より実践的なものを実施する。</p>	<p>①コロナが終息し、地域防災訓練が実施された場合については、参加率が前回比増。</p> <p>②防災備品等について、点検・整備が図られる。防災訓練内容について、工夫・改善が図られる。</p>	<p>総務</p>
		<p>○無駄のない、適正な予算執行により、施設・設備、備品・消耗品等の整備を確実に行う。</p>	<p>○不備・未実施、事故・トラブル等、ゼロ。</p>	<p>事務</p>
<p>(6)</p>	<p>教職員の資質向上と危機管理・コンプライアンス意識の高揚、業務の効率化と多忙化の解消を図る。</p>	<p>① 現教育課題（ICT機器（特に1・2年生については購入・所持を義務付けた端末）等を活用した学習指導方法の研究など）に対応した研修を実施する。</p> <p>② 部長・主任会、職員安全衛生委員会が中心となり、業務の精選・改善や多忙化の解消等を一層推進する。</p>	<p>①必要な研修が、適切な時期に実施される。</p> <p>②職員の超過勤務時間の前年度比減。</p>	<p>管理職 研修</p>

<p>(7)</p>	<p>「信頼される学校づくり」に向け、本校の魅力を積極的に発信する。</p>	<p>① 「浜北高通信」の発行が、年3回から2回に減ったことから、HPについて、更なる改良を進め、保護者・地域等へ、より時宜に適った確かな情報を発信するものにしていく。</p> <p>② HP及び一斉メール等により、家庭への連絡や情報提供を、より確実に行えるようにする。</p> <p>③ 中学生の一日体験入学、公開授業について、より良い形（実施時期、内容、対象等）で実施する。</p>	<p>①HPについて、特に行事、部活動の関係ページが改良される。 HPの更新が週1回以上。</p> <p>①②アンケートで、「家庭への連絡や情報提供が適切に行われている」と答える保護者が90%以上。</p> <p>③参加中学生等の満足度がアップ。</p>	<p>管理職 総務 情報 教務 学年 他分掌 全部活</p>
<p>(8)</p>	<p>「新学習指導要領」に基づく「新カリキュラム」を着実に推進する。</p>	<p>① 1・2年生に購入・所有を義務付ける端末について、本校ならではの活用の仕方の研究を進める。</p> <p>② 本校における「情報教育」のあり方や方向性について、さらに検討・協議を進める。</p>	<p>①本校ならではの効果的な活用例について示される。</p> <p>②教科「情報」の指導を含め、本校における「情報教育」のあり方や方向性等について示される。</p>	<p>教務 進路 生徒 情報 学年 教科 北高会 選定委 他 全職員</p>